

DATA：放射線科

- 日本医学放射線学会専門医修練機関(全部門)
- 主な対象疾患：放射線診断(CT検査、MRI検査、核医学(RI)検査、超音波検査)、放射線治療(治療用CT、3D-CRT、IGRT、リニアック(直線加速装置)、microselection HDR-V3高線量率密封小線源治療装置、治療計画装置)



◀診療科HP

福田一郎医師、着任

当科(放射線科治療部門)は、医師2名(専門医1名、認定医1名)、放射線技師4名(医学物理士1名)、看護師で構成されています。2019年4月より福田一郎医師が着任したことで、今まで以上に多くの放射線治療を行うことができるようになりました。

当院が保有している放射線治療機器は、外部照射のための「ラディザクト」、小線源治療のための「マイクロセレクトロン」の2台です。このうち「ラディザクト」は強度変調放射線治療(IMRT)を得意とする機器で、加速管がCTのように患者さんの周囲を回転しながら寝台周囲を少しずつ動くことで、特定箇所へ必要な量の放射線を照射していきます。回転は多方向からの照射を可能とします。さらに各方向からの照射量に強弱をつけることで、不整な形状の病変に対しても、その形状にあわせた高線量を照射することが可能です。近接正常組織への障害を最小限に抑えながら、高い治療効果が期待できます。治療対象はすべての悪性腫瘍で、とくに前立腺、骨盤、縦隔、頭頸部などです。遠隔転移のない限局した腫瘍ではその力を発揮します。福田医師は放射線治療全般を担当、なかでも「定位放射線治療」分野を得意としています。「定位放射線治療」とは、多方向から腫瘍の形状に合わせて、1回で高線量の照射を行う方法で、ピンポイント照射とも呼ばれています。この技術とIMRTを組み合わせることにより、短期間で、副作用が少なく、効果の高い放射線治療が実現できると考えています。

放射線治療の実際

放射線治療に対し、治療方針を検討し、準備する過程を「治療計画」と呼んでいます。画像所見、患者さんの全身状態、症状、希望を考慮し、他科主治医とも相談しながら、照射する範囲、1回にかける線量、

強度変調放射線治療／定位放射線治療の開始

照射する回数などを決定します。さらに放射線治療医、医学物理士が協力し、コンピュータを駆使してCT画像上に放射線がどのようにかかるか、いわば照射の設計図を作成します。治療時には、患者さんの照射部位を設計図通りに合わせる事が重要です。これが合わないと正しい位置へ照射されません。従来は患者さん自身の皮膚に線を引き、その線を基準に位置合わせをしていましたが、現在では画像誘導が主流となっています。毎回治療直前にCTを撮像し誤差を修正することにより、ダイレクトに正確な位置への照射が可能になっています。



歯科大学としての放射線治療

当院の特長である歯科領域の治療では、舌がんを始め、歯肉がん、頬粘膜がんなど口腔がんの症例が多数あります。治療の第一選択は手術ですので、腫瘍床や頸部リンパ節領域への再発予防を目的とした術後照射を行う症例が多いです。また手術適応がない場合や手術を希望されない場合は、原発巣への治療を含めた根治照射を行います。その際は、全身化学療法を併用します。とくに腫瘍が大きい場合は、血管内カテーテル治療(IVR)を用いた動脈内注入化学療法を併用し大きな効果を上げています。口腔がん

がん治療の選択肢としての放射線

放射線科

への照射の際は、歯科技工士に依頼して患者さん自身の口腔に合った「スパーサー」を作成しています。このようなきめ細かい対応は歯科大ならではの特長です。これにより、口腔内粘膜炎の軽減とともに、固定の精度が向上し、高線量の投与が可能です。



密封小線源治療も対応します

これは体内から放射線を照射する方法です。線源（イリジウム）を腫瘍の近くに留置することで、高線量の放射線を腫瘍に直接照射することができます。管腔臓器に留置する場合は腔内照射、刺す場合は組織内照射と呼んでいます。当院では子宮がんに対して治療を行っていますが、その他、頭頸部がん、前立腺がん、乳房温存術後照射などにも使われます。一般的には外部照射と組み合わせて治療を行い、必要な場合、局所の追加照射に使われることが多いです。市川市近郊地域でこの機器を保有している施設は少ないので、治療が必要な患者さんがいる場合はご相談ください。

放射線治療のこれから

超高齢者が増加している現代では、がん治療の対象年齢は確実に高齢化しています。今後のがん治療のあり方を考えると、放射線治療を上手に用いることが大切だと考えま

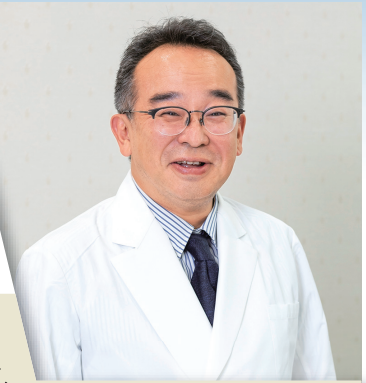
す。加えて外来通院で、これまでの生活を変えずに、患者さんに優しい治療をしていくことも大切です。機能温存しながら治していくこと、すでに前立腺がん、食道がんへの治療ではかなりの効果が得られています。また、緩和を目的とした放射線治療の領域にも高精度治療が必要とされてきています。以前は最小限の照射で、症状を一時的に緩和させることが目的でしたが、生存期間の延長に伴い、今まで以上に長い期間効果を持続させる必要がでてきています。そのためには、より狭い範囲に高線量を短時間で照射することが必要と考えます。最後に、機器の高精度化はもちろん、他科を含めた治療スタッフの質が重要です。スタッフ一同、安全で効果の高い放射線治療を提供できるようがんばります。

Dr's profile



Ichiro Fukuda

福田 一郎 医師



出身

生まれは東京都板橋区、育ちは岩手県盛岡市(高校卒業まで)です。

趣味

洗車(無心になれるから!)と、タコ専門の釣り(イダコは浅いところ、マダコは深いところ)です!

スポーツ歴

中学生時代はサッカー、高校時代は軟式テニス、大学時代は水泳をしていました。

医師になったきっかけ

高校時代の友人の影響で。医師になった後はIVRに興味を持ったので放射線科の道に進みました。

座右の銘

「がん」に厳しく、「患者さん」に優しく!



医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)